

#2
PCT/JP03/13259

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

16.10.03

RECEIVED

04 DEC 2003

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2002年10月16日

出 願 番 号
Application Number: 特願2002-301328
[ST. 10/C]: [JP2002-301328]

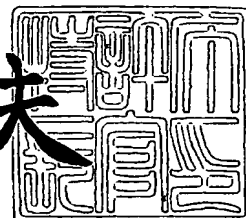
出 願 人
Applicant(s): 協和メデックス株式会社

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年11月20日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願
【整理番号】 H14-156MQ5
【提出日】 平成14年10月16日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 C12Q 1/00
C12Q 1/26
C12Q 1/60

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県駿東郡長泉町南一色字上山地 6 0 0 番 1 協和メ
デックス株式会社 協和メデックス研究所内

【氏名】 片山 有基

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県駿東郡長泉町南一色字上山地 6 0 0 番 1 協和メ
デックス株式会社 協和メデックス研究所内

【氏名】 梅原 真由美

【特許出願人】

【識別番号】 000162478

【氏名又は名称】 協和メデックス株式会社

【代表者】 所 洋

【代理人】

【識別番号】 100106574

【弁理士】

【氏名又は名称】 岩橋 和幸

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008408

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9505337

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 高密度リポ蛋白中のコレステロールの測定方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 検体と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素、または、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素、酸化型補酵素およびコレステロール脱水素酵素とを、胆汁酸誘導体を含む水性媒体中で反応させ、生成した過酸化水素または還元型補酵素を測定することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロールを測定する方法。

【請求項 2】 水性媒体が、さらに、アルブミンを含む請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】 コレステロールエステル加水分解酵素が、化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である請求項 1 または 2 記載の方法。

【請求項 4】 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールとポリエチレングリコールの共重合体を有する基、水溶性多糖類を含む基、スルホプロピル基、スルホブチル基、ポリウレタン基、および、キレート機能を有する基からなる群より選ばれる基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である請求項 3 記載の方法。

【請求項 5】 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である請求項 3 記載の方法。

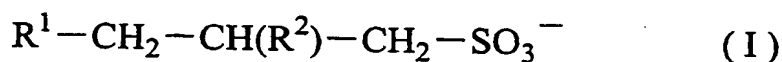
【請求項 6】 胆汁酸誘導体が、陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の方法。

【請求項 7】 陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、コール酸もしくはその塩、タウロコール酸もしくはその塩、グリココール酸もしくはその塩、リトコール酸もしくはその塩、デオキシコール酸もしくはその塩、ケノデオキシコール酸もしくはその塩、ウルソデオキシコール酸もしくはその塩、7-オ

キソリトコール酸もしくはその塩、12-オキシリトコール酸もしくはその塩、12-オキシケノデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキシデオキシコール酸もしくはその塩、ヒオコール酸もしくはその塩、ヒオデオキシコール酸もしくはその塩、および、デヒドロコール酸もしくはその塩からなる群より選ばれる胆汁酸誘導体である請求項6記載の方法。

【請求項8】 胆汁酸誘導体が、両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である請求項1～5のいずれかに記載の方法。

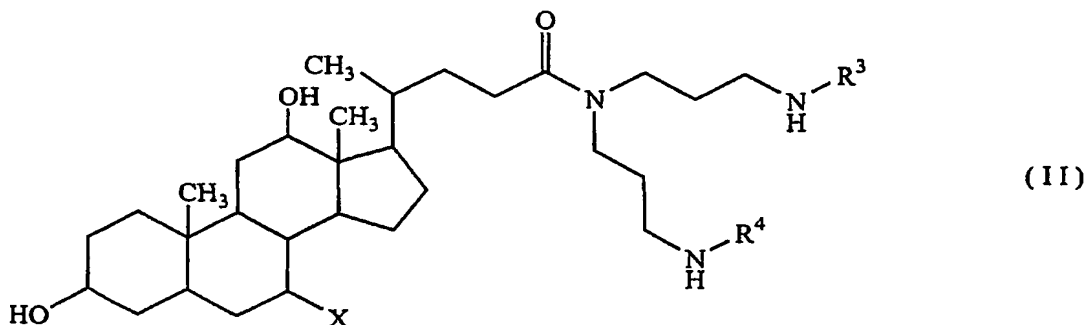
【請求項9】 両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式 (I) 【化1】



[式中、 R^1 は、3-(3-コラミドプロピル)ジメチルアンモニオ基であり、 R^2 は、水素原子または水酸基である]で表される化合物である請求項8記載の方法。

【請求項10】 胆汁酸誘導体が、非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である請求項1～5のいずれかに記載の方法。

【請求項11】 非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式 (II) 【化2】



(Xは、水素原子または水酸基を表し、 R^3 および R^4 は、同一または異なって、置換もしくは非置換のアルキル、または、置換もしくは非置換のアルカノイルを

表す) で表される化合物である請求項 10 記載の方法。

【請求項 12】 膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用試薬。

【請求項 13】 膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体および酸化型補酵素を含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用試薬。

【請求項 14】 さらに、還元型補酵素測定用試薬を含有する請求項 13 記載の試薬。

【請求項 15】 さらに、アルブミンを含有する請求項 12～14 のいずれかに記載の試薬。

【請求項 16】 コレステロールエステル加水分解酵素が、化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である請求項 12～15 のいずれかに記載の試薬。

【請求項 17】 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールとポリエチレングリコールの共重合体を有する基、水溶性多糖類を含有する基、スルホプロピル基、スルホブチル基、ポリウレタン基、および、キレート機能を有する基からなる群より選ばれる基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である請求項 16 記載の試薬。

【請求項 18】 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である請求項 16 記載の試薬。

【請求項 19】 胆汁酸誘導体が、陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である請求項 12～18 のいずれかに記載の試薬。

【請求項 20】 陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、コール

酸もしくはその塩、タウロコール酸もしくはその塩、グリココール酸もしくはその塩、リトコール酸もしくはその塩、デオキシコール酸もしくはその塩、ケノデオキシコール酸もしくはその塩、ウルソデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキソリトコール酸もしくはその塩、12-オキソリトコール酸もしくはその塩、12-オキソケノデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキソデオキシコール酸もしくはその塩、ヒオコール酸もしくはその塩、ヒオデオキシコール酸もしくはその塩、および、デヒドロコール酸もしくはその塩からなる群より選ばれる胆汁酸誘導体である請求項19記載の試薬。

【請求項21】 胆汁酸誘導体が、両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である請求項12～18のいずれかに記載の試薬。

【請求項22】 両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式 (I)
【化3】

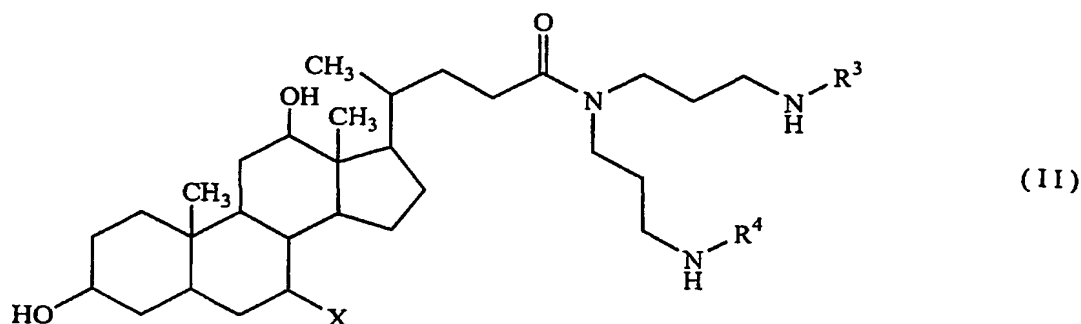


[式中、 R^1 は、3-(3-コラミドプロピル)ジメチルアンモニオ基であり、 R^2 は、水素原子または水酸基である]で表される化合物である請求項21記載の試薬。

【請求項23】 胆汁酸誘導体が、非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である請求項12～18のいずれかに記載の試薬。

【請求項24】 非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式 (II)

【化 4】



(Xは、水素原子または水酸基を表し、R³およびR⁴は、同一または異なって、置換もしくは非置換のアルキル、または、置換もしくは非置換のアルカノイルを表す)で表される化合物である請求項23記載の試薬。

【請求項25】 膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素を含有する第一試薬と、コレステロール酸化酵素を含有する第二試薬とを含有し、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用キット。

【請求項26】 胆汁酸誘導体を含有する第一試薬と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素を含有する第二試薬とを含有し、過酸化水素測定用試薬を第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用キット。

【請求項27】 過酸化水素測定用試薬を含有する第一試薬と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素を含有する第二試薬とを含有し、胆汁酸誘導体を第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用キット。

【請求項28】 膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素を含有する第一試薬と、コレステロール脱水

素酵素を含有する第二試薬とを含有し、胆汁酸誘導体および酸化型補酵素を第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用キット。

【請求項 29】 胆汁酸誘導体を含有する第一試薬と、臍臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素を含有する第二試薬とを含有し、酸化型補酵素を第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用キット。

【請求項 30】 さらに、還元型補酵素測定用試薬を、第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有する請求項 28 または 29 記載のキット。

【請求項 31】 さらに、アルブミンを、第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有する請求項 25～30 のいずれかに記載のキット。

【請求項 32】 コレステロールエステル加水分解酵素が、化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である請求項 25～31 のいずれかに記載のキット。

【請求項 33】 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールとポリエチレングリコールの共重合体を有する基、水溶性多糖類を含有する基、スルホプロピル基、スルホブチル基、ポリウレタン基、および、キレート機能を有する基からなる群より選ばれる基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である請求項 32 記載のキット。

【請求項 34】 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である請求項 32 記載のキット。

【請求項 35】 胆汁酸誘導体が、陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である請求項 25～34 のいずれかに記載のキット。

【請求項 36】 陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、コール酸もしくはその塩、タウロコール酸もしくはその塩、グリココール酸もしくはそ

の塩、リトコール酸もしくはその塩、デオキシコール酸もしくはその塩、ケノデオキシコール酸もしくはその塩、ウルソデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキソリトコール酸もしくはその塩、12-オキソリトコール酸もしくはその塩、12-オキソケノデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキソデオキシコール酸もしくはその塩、ヒオコール酸もしくはその塩、ヒオデオキシコール酸もしくはその塩、および、デヒドロコール酸もしくはその塩からなる群より選ばれる胆汁酸誘導体である請求項35記載のキット。

【請求項37】 胆汁酸誘導体が、両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である請求項25～34のいずれかに記載のキット。

【請求項38】 両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式（I）
【化5】

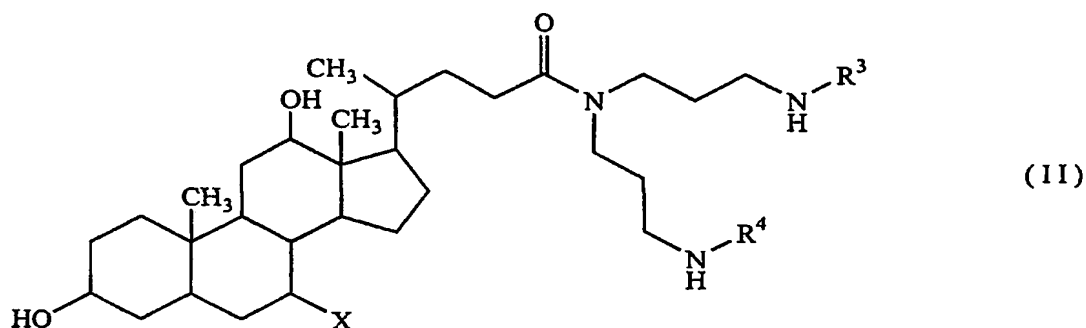


〔式中、 R^1 は、3-（3-コラミドプロピル）ジメチルアンモニオ基であり、 R^2 は、水素原子または水酸基である〕で表される化合物である請求項37記載のキット。

【請求項39】 胆汁酸誘導体が、非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である請求項25～34のいずれかに記載のキット。

【請求項40】 非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式（II）

【化6】



(Xは、水素原子または水酸基を表し、R³およびR⁴は、同一または異なって、置換もしくは非置換のアルキル、または、置換もしくは非置換のアルカノイルを表す)で表される化合物である請求項39記載のキット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、検体中の高密度リポ蛋白 (HDL) 中のコレステロールの測定方法、測定用試薬および測定用キットに関する。

【0002】

【従来の技術】

生体中リポ蛋白は、その比重により高密度リポ蛋白 (HDL)、低密度リポ蛋白 (LDL)、超低密度リポ蛋白 (VLDL)、カイロミクロン (CM) に分類されており、それぞれ主にアポ蛋白の種類の違いによって生体中での働きが大きく異なっており、脂質組成もさまざまである。その中で、HDLは、動脈壁を含めた各組織からコレステロールを受け取るために細胞内に蓄積したコレステロールの除去作用に関係し、冠動脈硬化症をはじめとする各種動脈硬化症の危険予防因子であり、その血中レベルは動脈硬化性疾患の発症予知の有用な指針となることが知られている。

【0003】

従来のHDL中のコレステロール (以下、HDLコレステロールと略記する)

の測定法は、超遠心法、免疫化学的方法、電気泳動法、沈殿法等による分画操作とコレステロール定量操作の2段階からなる。しかしながら、分画操作は、操作が煩雑であり、長時間を要するものであり、また、安全性の点でも問題があった。従って、これらの分離操作を伴う測定法は極めて効率が悪く、実用化に適さない方法であった。

【0004】

近年、上記の問題を解決するための種々の測定法が開発されている。例えば、HDL以外のリポ蛋白を凝集させる測定法として、デキストラン硫酸等のHDL以外のリポ蛋白を凝集させる試薬、2価の金属塩、および、化学的に修飾された酵素を用いる測定法（特許文献1参照）、ポリアニオン等のHDL以外のリポ蛋白と複合体を形成する試薬と、ポリオキシエチレンーポリオキシプロピレン縮合物等のリポ蛋白を溶解しない界面活性剤とを用いる測定法（特許文献2参照）、デキストラン硫酸等のポリアニオン、2価の金属塩、特定の非イオン性界面活性剤および試料由来のアルブミンとは別異のアルブミンとを用いる測定法（特許文献3参照）等が知られている。また、血清または血漿を、リポ蛋白分画剤（デキストラン硫酸等のポリアニオンとマグネシウムイオン等の2価陽イオンとの組み合わせ）を含む溶液で処理し、得られた混合液を固体および液体の分離処理することなく、アニオン性界面活性剤（アルキルスルホン酸または胆汁酸もしくはその誘導体）の存在下に、コレステロールエステラーゼおよびコレステロールオキシダーゼと反応させ、生成した過酸化水素を測定することを特徴とする血清または血漿中のHDLコレステロールを測定する方法（特許文献4参照）も知られている。

【0005】

しかしながら、これらのHDL以外のリポ蛋白を凝集させるHDLコレステロール測定法においては、従来の基準法と良好な相関性があるものの、反応で生成する凝集物による濁りに起因する不正確性、反応セルのアルカリ洗浄の際に、反応液中の金属塩との反応で生成する金属水酸化物の析出による自動分析装置への過度の負荷という問題がある。

【0006】

また、HDL 以外のリポ蛋白を凝集させない測定法として、アシルポリオキシエチレンソルビタンエステルにより HDL 以外のリポ蛋白中のコレステロールを優先的に過酸化水素へ変換し、生成した過酸化水素を消去した後、ポリオキシエチレンアルキルエーテルの添加により、HDL コレステロールを酵素的に測定する方法（特許文献 5 参照）、生体試料と、膵臓由来のコレステロールエステラーゼと、コレステロールオキシダーゼと、コール酸等の胆汁酸とを、アルブミンが存在する条件下で接触させ、HDL コレステロールと当該酵素との反応により消費される化合物または生成される化合物を測定することを特徴とする HDL コレステロールの測定方法（特許文献 6 参照）等が知られている。

【0007】

しかしながら、これらの HDL 以外のリポ蛋白を凝集させない HDL コレステロール測定法においては、HDL 以外のリポ蛋白中のコレステロールの不完全な消去や、HDL 以外のリポ蛋白中のコレステロールに対する非特異反応に起因する測定値の不正確性が問題となる場合がある。

【0008】

胆汁酸類を用いる HDL コレステロール測定法としては、前記の特許文献 4 や特許文献 6 に記載された方法の他に、例えば血清または血漿を、コレステロールエステラーゼ、コレステロールオキシダーゼ、および、胆汁酸塩もしくは胆汁酸誘導体もしくはジオクチルスルホサクシネートを含有する緩衝液中で当該酵素と反応させ、VLDL および LDL 中のコレステロールを HDL コレステロールに先駆けて反応させ、生成した過酸化水素を測定した後、非イオン系のポリオキシエチレンオキシド基含有界面活性剤を反応液に添加し、HDL コレステロールと当該酵素とを反応させ、HDL コレステロールを特異的に分別定量する方法（特許文献 7 参照）、血清を、特定の pH および特定の温度の下、膵臓由来のコレステロールエステラーゼ、コレステロールオキシダーゼ、胆汁酸群の界面活性剤、および、非イオン系界面活性剤を含有する緩衝液中で当該酵素と反応させることにより HDL コレステロールを測定する方法（特許文献 8 参照）、生体試料を、アルブミンおよび胆汁酸もしくはその塩の存在下に、膵臓由来のコレステロールエステラーゼとコレステロールオキシダーゼに接触させ、HDL コレステロール

を当該酵素と反応させた後、処理された生体試料を微生物由来のコレステロールエステラーゼと接触させ、LDLコレステロールを当該酵素（微生物由来のコレステロールエステラーゼとコレステロールオキシダーゼ）と反応させることにより、HDLコレステロールおよびLDLコレステロールを測定する方法（特許文献9参照）、リポ蛋白を含有する試料を、胆汁酸誘導体および／または両性界面活性剤の存在下に酵素（コレステロールエステラーゼおよびコレステロールオキシダーゼ）と反応させ、HDLコレステロールを選択的に反応させた後、ポリオキシエチレン鎖を有する非イオン性界面活性剤を反応液に添加し、HDLコレステロールを選択的に反応させることにより、HDLコレステロールおよび／またはLDLコレステロールを測定する方法（特許文献10参照）等が知られている。しかしながら、これらの測定法は、測定に長時間を要する場合があります、また、必ずしも、HDLコレステロールに特異的な測定法ではなかった。

【0009】

【特許文献1】

特開平8-131197号公報

【0010】

【特許文献2】

特開平8-201393号公報

【0011】

【特許文献3】

特開平9-285298号公報

【0012】

【特許文献4】

特開平8-116996号公報

【0013】

【特許文献5】

特開平9-299号公報

【0014】

【特許文献6】

国際公開第97/40376号パンフレット

【0015】

【特許文献7】

特開昭62-69999号公報

【0016】

【特許文献8】

特開昭63-126498号公報

【0017】

【特許文献9】

特開平11-9300号公報

【0018】

【特許文献10】

特開2000-325097号公報

【0019】

【発明が解決しようとする課題】

本発明の目的は、簡便で、かつ、正確に検体中のHDLコレステロールを測定するための方法、試薬およびキットを提供することにある。

【0020】

【課題を解決するための手段】

本発明は、下記〔1〕～〔40〕に関する。

〔1〕 検体と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素、または、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素、酸化型補酵素およびコレステロール脱水素酵素とを、胆汁酸誘導体を含む水性媒体中で反応させ、生成した過酸化水素または還元型補酵素を測定することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロールを測定する方法。

〔2〕 水性媒体が、さらに、アルブミンを含む〔1〕記載の方法。

〔3〕 コレステロールエステル加水分解酵素が、化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である〔1〕または〔2〕記載の方法。

〔4〕 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールとポリエチレングリコールの共重合体を有する基、水溶性多糖類を含有する基、スルホプロピル基、スルホブチル基、ポリウレタン基、および、キレート機能を有する基からなる群より選ばれる基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である〔3〕記載の方法。

〔5〕 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である〔3〕記載の方法。

【0021】

〔6〕 胆汁酸誘導体が、陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である〔1〕～〔5〕のいずれかに記載の方法。

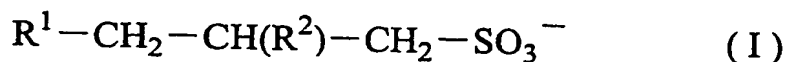
〔7〕 陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、コール酸もしくはその塩、タウロコール酸もしくはその塩、グリココール酸もしくはその塩、リトコール酸もしくはその塩、デオキシコール酸もしくはその塩、ケノデオキシコール酸もしくはその塩、ウルソデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキシリトコール酸もしくはその塩、12-オキシリトコール酸もしくはその塩、12-オキシケノデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキシデオキシコール酸もしくはその塩、ヒオコール酸もしくはその塩、ヒオデオキシコール酸もしくはその塩、および、デヒドロコール酸もしくはその塩からなる群より選ばれる胆汁酸誘導体である〔6〕記載の方法。

〔8〕 胆汁酸誘導体が、両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である〔1〕～〔5〕のいずれかに記載の方法。

〔9〕 両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式（I）

【0022】

【化7】



【0023】

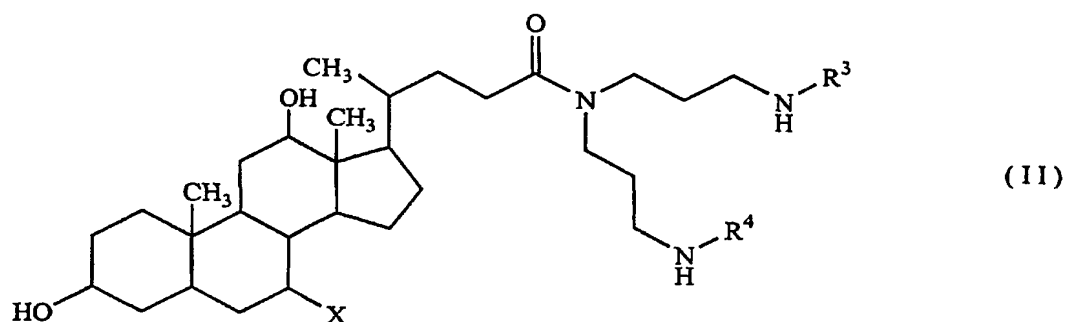
〔式中、 R^1 は、3-(3-コラミドプロピル)ジメチルアンモニオ基であり、 R^2 は、水素原子または水酸基である〕で表される化合物である〔8〕記載の方法。

〔10〕 胆汁酸誘導体が、非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である〔1〕～〔5〕のいずれかに記載の方法。

〔11〕 非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式 (II)

【0024】

【化8】



【0025】

(Xは、水素原子または水酸基を表し、 R^3 および R^4 は、同一または異なって、置換もしくは非置換のアルキル、または、置換もしくは非置換のアルカノイルを表す)で表される化合物である〔10〕記載の方法。

〔12〕 膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用試薬。

【0026】

〔13〕 膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体および酸化型補酵素を含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用

試薬。

[14] さらに、還元型補酵素測定用試薬を含有する [13] 記載の試薬。

[15] さらに、アルブミンを含有する [12] ~ [14] のいずれかに記載の試薬。

[16] コレステロールエステル加水分解酵素が、化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である [12] ~ [15] のいずれかに記載の試薬。

[17] 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールとポリエチレングリコールの共重合体を有する基、水溶性多糖類を含有する基、スルホプロピル基、スルホブチル基、ポリウレタン基、および、キレート機能を有する基からなる群より選ばれる基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である [16] 記載の試薬。

[18] 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である [16] 記載の試薬。

【0027】

[19] 胆汁酸誘導体が、陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である [12] ~ [18] のいずれかに記載の試薬。

[20] 陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、コール酸もしくはその塩、タウロコール酸もしくはその塩、グリココール酸もしくはその塩、リトコール酸もしくはその塩、デオキシコール酸もしくはその塩、ケノデオキシコール酸もしくはその塩、ウルソデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキシリトコール酸もしくはその塩、12-オキシリトコール酸もしくはその塩、12-オキシケノデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキシデオキシコール酸もしくはその塩、ヒオコール酸もしくはその塩、ヒオデオキシコール酸もしくはその塩、および、デヒドロコール酸もしくはその塩からなる群より選ばれる胆汁酸誘導体である [19] 記載の試薬。

【0028】

[21] 胆汁酸誘導体が、両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である [12] ~ [18] のいずれかに記載の試薬。

[22] 両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式 (I)

【0029】

【化9】



【0030】

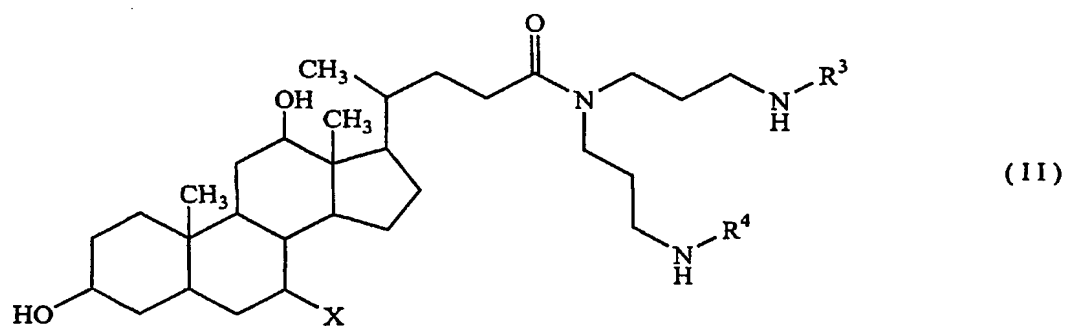
[式中、 R^1 は、3-(3-コラミドプロピル)ジメチルアンモニオ基であり、 R^2 は、水素原子または水酸基である]で表される化合物である [21] 記載の試薬。

[23] 胆汁酸誘導体が、非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である [12] ~ [18] のいずれかに記載の試薬。

[24] 非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式 (II)

【0031】

【化10】



【0032】

(Xは、水素原子または水酸基を表し、 R^3 および R^4 は、同一または異なって、置換もしくは非置換のアルキル、または、置換もしくは非置換のアルカノイルを表す)で表される化合物である [23] 記載の試薬。

【0 0 3 3】

〔2 5〕 膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素を含有する第一試薬と、コレステロール酸化酵素を含有する第二試薬とを含有し、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用キット。

〔2 6〕 胆汁酸誘導体を含有する第一試薬と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素を含有する第二試薬とを含有し、過酸化水素測定用試薬を第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用キット。

〔2 7〕 過酸化水素測定用試薬を含有する第一試薬と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素を含有する第二試薬とを含有し、胆汁酸誘導体を第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用キット。

【0 0 3 4】

〔2 8〕 膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素を含有する第一試薬と、コレステロール脱水素酵素を含有する第二試薬とを含有し、胆汁酸誘導体および酸化型補酵素を第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用キット。

〔2 9〕 胆汁酸誘導体を含有する第一試薬と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素を含有する第二試薬とを含有し、酸化型補酵素を第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロール測定用キット。

【0 0 3 5】

〔3 0〕 さらに、還元型補酵素測定用試薬を、第一試薬、第二試薬のいずれ

かまたは両方に含有する〔28〕または〔29〕記載のキット。

〔31〕 さらに、アルブミンを、第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有する〔25〕～〔30〕のいずれかに記載のキット。

〔32〕 コレステロールエステル加水分解酵素が、化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である〔25〕～〔31〕のいずれかに記載のキット。

〔33〕 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールとポリエチレングリコールの共重合体を有する基、水溶性多糖類を含有する基、スルホプロピル基、スルホブチル基、ポリウレタン基、および、キレート機能を有する基からなる群より選ばれる基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である〔32〕記載のキット。

〔34〕 化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素が、ポリエチレングリコールを主成分とする基により修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素である〔32〕記載のキット。

【0036】

〔35〕 胆汁酸誘導体が、陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である〔25〕～〔34〕のいずれかに記載のキット。

〔36〕 陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、コール酸もしくはその塩、タウロコール酸もしくはその塩、グリココール酸もしくはその塩、リトコール酸もしくはその塩、デオキシコール酸もしくはその塩、ケノデオキシコール酸もしくはその塩、ウルソデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキシリトコール酸もしくはその塩、12-オキシリトコール酸もしくはその塩、12-オキシケノデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキシデオキシコール酸もしくはその塩、ヒオコール酸もしくはその塩、ヒオデオキシコール酸もしくはその塩、および、デヒドロコール酸もしくはその塩からなる群より選ばれる胆汁酸誘導体である〔35〕記載のキット。

【0037】

〔37〕 胆汁酸誘導体が、両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である〔

25] ~ [34] のいずれかに記載のキット。

[38] 両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式 (I)

【0038】

【化11】



【0039】

[式中、 R^1 は、3-(3-コラミドプロピル)ジメチルアンモニオ基であり、 R^2 は、水素原子または水酸基である]で表される化合物である [37] 記載のキット。

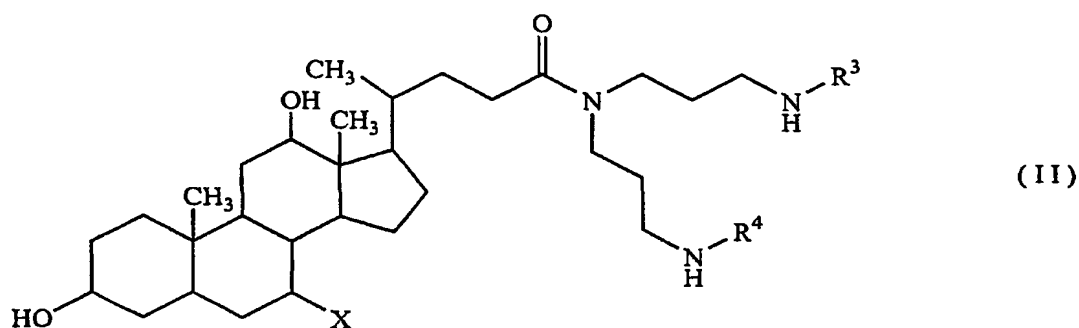
【0040】

[39] 胆汁酸誘導体が、非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体である [25] ~ [34] のいずれかに記載のキット。

[40] 非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体が、一般式 (II)

【0041】

【化12】



【0042】

(Xは、水素原子または水酸基を表し、 R^3 および R^4 は、同一または異なって、置換もしくは非置換のアルキル、または、置換もしくは非置換のアルカノイルを表す)で表される化合物である [39] 記載のキット。

【0043】

【発明の実施の形態】

本発明のHDLコレステロールの測定方法は、HDL以外のリポ蛋白中のコレステロールを消去することなく、HDLコレステロールを測定する方法である。

本発明の測定方法において用いられる検体としては、例えば全血、血漿、血清、髄液、唾液、羊水、尿、汗、脾液等が挙げられるが、血漿および血清が好ましい。

【0044】

本発明におけるコレステロールエステル加水分解酵素としては、コレステロールエステルを加水分解する能力を有する酵素であれば特に限定はなく、例えば動物、植物または微生物由来のコレステロールエステラーゼ、リポプロテインリパーゼの他、遺伝子工学的な手法により製造されるコレステロールエステラーゼ、リポプロテインリパーゼ等も用いることができる。

【0045】

コレステロールエステル加水分解酵素としては、無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素も、化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素も使用することができる。また、コレステロールエステル加水分解酵素としては市販品を使用することもできる。

市販されているコレステロールエステル加水分解酵素としては、コレステロールエステラーゼ“Amano”2（CHE2；天野エンザイム社製）、コレステロールエステラーゼ“Amano”3（CHE3；天野エンザイム社製）、リポプロテインリパーゼ（LPL311；東洋紡製社製）、リポプロテインリパーゼ“Amano”6（LPL6；天野エンザイム社製）、コレステロールエステラーゼ[C OE 313（化学的に修飾されたコレステロールエステラーゼ）；東洋紡績社製]等が挙げられる。また、本発明においては、2種類以上のコレステロールエステル加水分解酵素を組み合わせ用いることもできる。

【0046】

コレステロールエステル加水分解酵素の化学修飾において当該酵素を修飾する基（化学修飾基）としては、例えばポリエチレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールを主成分とする基、ポリプロピレングリコールとポリ

エチレングリコールの共重合体を有する基、水溶性多糖類を含有する基、スルホプロピル基、スルホブチル基、ポリウレタン基、キレート機能を有する基等が挙げられるが、ポリエチレングリコールを主成分とする基が好ましい。水溶性多糖類としては、例えばデキストラン、プルラン、可溶性デンプン等が挙げられる。

【0047】

コレステロールエステル加水分解酵素を化学的に修飾するための試薬（化学修飾剤）としては、上記の化学修飾基と、酵素のアミノ基、カルボキシル基、スルフヒドリル基等と反応し得る官能基または構造とを併せ持つ化合物等が挙げられる。酵素中のアミノ基と反応し得る官能基または構造としては、例えばカルボキシル基、活性エステル基（N-ヒドロキシサクシンイミド基等）、酸無水物、酸塩化物、アルデヒド、エポキシド基、1, 3-プロパンスルトン、1, 4-ブタンスルトン等が挙げられる。酵素中のカルボキシル基と反応し得る官能基または構造としては、例えばアミノ基等が挙げられる。酵素中のスルフヒドリル基と反応性がある基または構造としては、例えばマレイミド基、ジスルフィド、 α -ハロエステル（ α -ヨードエステル等）等が挙げられる。

【0048】

化学修飾剤として、市販品を使用することもできる。市販されている化学修飾剤としては、ポリエチレングリコールを主成分とする基とN-ヒドロキシサクシンイミド基とを有するサンブライトVFM-4101、サンブライトMEAC-50HS、サンブライトMEC-50HS（いずれも日本油脂社製）、ポリアルキレングリコールを主成分とする基と酸無水物構造とを有するサンブライトAKMシリーズ（例えば、サンブライトAKM-1510等）、サンブライトADMシリーズ、サンブライトACMシリーズ（いずれも日本油脂社製）、ポリエチレングリコールを主成分とする基とエポキシド基とを有するEPOX-3400、M-EPOX-5000（いずれもSheawater Polymers社製）、キレート機能を有する基と酸無水物構造とを有するジエチレントリアミン-N, N, N', N', N'-ペンタ無水酢酸（DTPA anhydride；同仁化学社製）等が挙げられる。

【0049】

コレステロールエステル加水分解酵素の化学修飾は、例えば以下の方法で行うことができるが、本方法に限定されるものではない。まず、コレステロールエステル加水分解酵素を pH 8.0 以上の緩衝液（例えば HEPES 緩衝液）に溶解し、0～55℃で 0.01～500 倍モル量の化学修飾剤を添加し、5 分間～5 時間攪拌する。実際の酵素反応においては、化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素として、この反応液そのもののみならず、必要に応じて限外濾過膜等により未反応の化学修飾剤等を除去したものの、使用することもできる。

【0050】

本反応の方法に用いられるコレステロールエステル加水分解酵素の濃度としては、本発明の HDL コレステロールの測定を可能とする濃度であれば特に制限はないが、反応液中で 0.01～200 U/mL の濃度であることが好ましく、0.02～100 U/mL であることがより好ましい。

【0051】

本発明におけるコレステロール酸化酵素としては、コレステロールを酸化して過酸化水素を生成する能力を有する酵素であれば特に制限はなく、例えば動物、植物または微生物由来のコレステロールオキシダーゼの他、遺伝子工学的な手法により製造されるコレステロールオキシダーゼ等も用いることができ、コレステロールオキシダーゼ “Amano” 1 (CHOD1; 天野エンザイム社製)、コレステロールオキシダーゼ (CO-PE; キッコーマン社製)、コレステロールオキシダーゼ (COO321; 東洋紡績社製) 等の市販品を用いることもできる。また、本発明においては、2 種類以上のコレステロール酸化酵素を組み合わせることもできる。

【0052】

コレステロール酸化酵素は、無修飾の酵素であっても、化学的に修飾された酵素であってもよい。化学的に修飾されたコレステロール酸化酵素は、例えば前述の化学修飾剤を用いて、前述の化学修飾方法により作製することができる。

本反応の方法に用いられるコレステロール酸化酵素の濃度としては、本発明の HDL コレステロールの測定を可能とする濃度であれば特に制限はないが、反応

液中で0.01～200 U/mLの濃度であることが好ましく、0.02～100 U/mLの濃度であることがより好ましい。

【0053】

本発明におけるコレステロール脱水素酵素としては、酸化型補酵素の存在下にコレステロールを酸化して還元型補酵素を生成する能力を有する酵素であれば特に制限はなく、例えば動物、植物または微生物由来のコレステロールデヒドロゲナーゼの他、遺伝子工学的な手法により製造されるコレステロールデヒドロゲナーゼ等も用いることができる。コレステロールデヒドロゲナーゼ“Amano” 5 (CHDH5; 天野エンザイム社製) 等の市販品を用いることもできる。また、本発明においては、2種類以上のコレステロール脱水素酵素を組み合わせることもできる。コレステロール脱水素酵素は、無修飾の酵素であっても、化学的に修飾された酵素であってもよい。化学的に修飾されたコレステロール脱水素酵素は、例えば前述の化学修飾剤を用いて、前述の化学修飾方法により作製することができる。

【0054】

本反応の方法に用いられるコレステロール脱水素酵素の濃度としては、本発明のHDLコレステロールの測定を可能とする濃度であれば特に制限はないが、反応液中で0.01～200 U/mLの濃度であることが好ましく、0.02～100 U/mLの濃度であることがより好ましい。

【0055】

本発明のコレステロール脱水素酵素を用いた測定法においては、酸化型補酵素が使用される。酸化型補酵素としては、例えばNAD、NADP、thio-NAD、thio-NADP等が挙げられる。

【0056】

本発明において用いられるアルブミンとしては、本発明のHDLコレステロールの測定を可能とするアルブミンであれば特に限定はなく、例えばウシ、ウマ、ヒツジ、ヒト由来のアルブミン等が挙げられるが、ウシ血清アルブミン(BSA)が好ましく挙げられる。また、遺伝子工学的な手法により製造されるアルブミンも使用することができる。本発明においては、由来の異なる2種類以上のアル

ブミンを組み合わせることもできる。本発明のHDLコレステロールの測定におけるアルブミンの濃度としては、本発明のHDLコレステロールの測定を可能とする濃度であれば特に制限はないが、反応液中の濃度が0.001～10%であることが好ましく、0.01～1%がより好ましい。

【0057】

本発明における胆汁酸誘導体としては、本発明のHDLコレステロールの測定を可能とする胆汁酸誘導体であれば特に制限はないが、例えば陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体、両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体、非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体等が挙げられる。

【0058】

陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体としては、例えばコール酸もしくはその塩、タウロコール酸もしくはその塩、グリココール酸もしくはその塩、リトコール酸もしくはその塩、デオキシコール酸もしくはその塩、ケノデオキシコール酸もしくはその塩、ウルソデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキソリトコール酸もしくはその塩、12-オキソリトコール酸もしくはその塩、12-オキソケノデオキシコール酸もしくはその塩、7-オキソデオキシコール酸もしくはその塩、ヒオコール酸もしくはその塩、ヒオデオキシコール酸もしくはその塩、デヒドロコール酸もしくはその塩等が挙げられる。塩としては、例えばアンモニウム塩、リチウム塩、ナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩、カルシウム塩等が挙げられる。陰イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体の濃度としては、本発明のHDLコレステロールの測定を可能とする濃度であれば特に制限はないが、反応液中の濃度が0.001～30%であることが好ましく、0.01～3%がより好ましい。

【0059】

両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体としては、例えば一般式(I)

【0060】

【化13】



【0061】

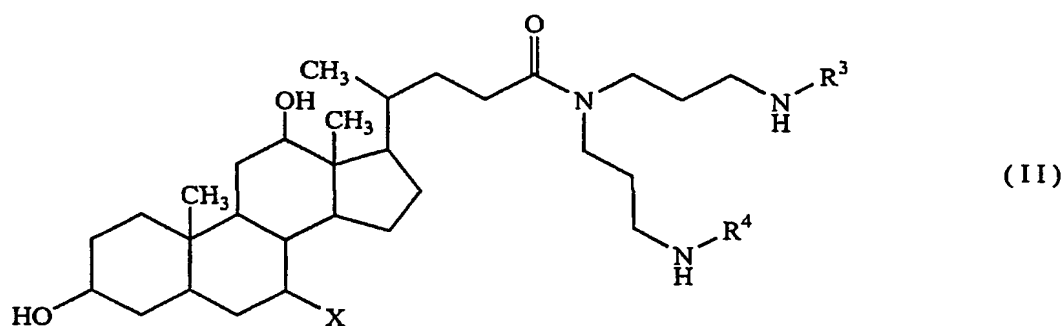
【式中、 R^1 は、3-(3-コラミドプロピル)ジメチルアンモニオ基であり、 R^2 は、水素原子または水酸基である】で表される化合物【以下、化合物(I)という】等が挙げられる。以下、 R^2 が水素原子である化合物(I)をCHAPSと、 R^2 が水酸基である化合物(I)をCHAPSOとよぶ。両性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体の濃度としては、本発明のHDLコレステロールの測定を可能とする濃度であれば特に制限はないが、反応液中の濃度が0.001~30%であることが好ましく、0.01~3%がより好ましい。

【0062】

非イオン性界面活性作用を有する胆汁酸誘導体としては、例えば一般式(II)

【0063】

【化14】



【0064】

(Xは、水素原子または水酸基を表し、 R^3 および R^4 は、同一または異なって、置換もしくは非置換のアルキル、または、置換もしくは非置換のアルカノイルを表す)で表される化合物【以下、化合物(II)という】等が挙げられる。アルキル、アルカノイルにおけるアルキルとしては、直鎖または分枝状の炭素数1~

10の、例えばメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、ネオペンチル、ヘキシル、ヘプチル、オクチル、ノニル、デシル等が挙げられる。置換アルキルおよび置換アルカノイルにおける置換基としては、例えば水酸基、ハロゲン原子等が挙げられる。ハロゲン原子は、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素の各原子を意味する。化合物(I I)のうち、 R^3 および R^4 が共に、

【0065】

【化15】



【0066】

(以下、置換基Aという)である化合物が好ましい。以下、X、 R^3 および R^4 がそれぞれ、水素原子、置換基Aおよび置換基Aである化合物をdeoxy-BIGCHAP、水酸基、置換基Aおよび置換基Aである化合物をBIGCHAPという。非イオン性界面活性を有する胆汁酸誘導体の濃度としては、本発明のHDLコレステロールの測定を可能とする濃度であれば特に制限はないが、反応液中の濃度が0.001~30%であることが好ましく、0.01~3%がより好ましい。

【0067】

本発明のHDLコレステロール測定法において使用される水性媒体としては、例えば脱イオン水、蒸留水、緩衝液等が挙げられるが、緩衝液が好ましい。緩衝液に用いる緩衝剤としては、例えばトリス(ヒドロキシメチル)アミノメタン緩衝剤、リン酸緩衝剤、ホウ酸緩衝剤、グッドの緩衝剤等が挙げられる。グッドの緩衝剤としては、例えば2-モルホリノエタンスルホン酸(MES)、ビス(2-ヒドロキシエチル)イミノトリス(ヒドロキシメチル)メタン(Bis-Tris)、N-(2-アセトアミド)イミノ二酢酸(ADA)、ピペラジン-N,N'-ビス(2-エタンスルホン酸)(PIPES)、N-(2-アセトアミド)-2-アミノエタンスルホン酸(ACES)、3-モルホリノ-2-ヒドロキ

シプロパンスルホン酸 (MOPSO)、N, N-ビス (2-ヒドロキシエチル) -2-アミノエタンスルホン酸 (BES)、3-モルホリノプロパンスルホン酸 (MOPS)、N-〔トリス (ヒドロキシメチル) メチル〕 -2-アミノエタンスルホン酸 (TES)、2-〔4- (2-ヒドロキシエチル) -1-ピペラジニル〕 エタンスルホン酸 (HEPES)、3-〔N, N-ビス (2-ヒドロキシエチル) アミノ〕 -2-ヒドロキシシプロパンスルホン酸 (DIPSO)、N-〔トリス (ヒドロキシメチル) メチル〕 -2-ヒドロキシ-3-アミノプロパンスルホン酸 (TAPSO)、ピペラジン-N, N'-ビス (2-ヒドロキシシプロパンスルホン酸) (POPSO)、3-〔4- (2-ヒドロキシエチル) -1-ピペラジニル〕 -2-ヒドロキシシプロパンスルホン酸 (HEPPSO)、3-〔4- (2-ヒドロキシエチル) -1-ピペラジニル〕 プロパンスルホン酸 [(H) EPPS]、N-〔トリス (ヒドロキシメチル) メチル〕 グリシン (Tricine)、N, N-ビス (2-ヒドロキシエチル) グリシン (Bicine)、N-トリス (ヒドロキシメチル) メチル-3-アミノプロパンスルホン酸 (TAPS)、N-シクロヘキシル-2-アミノエタンスルホン酸 (CHES)、N-シクロヘキシル-3-アミノ-2-ヒドロキシシプロパンスルホン酸 (CAPSO)、N-シクロヘキシル-3-アミノプロパンスルホン酸 (CAPS) 等が挙げられる。緩衝液の濃度は測定に適した濃度であれば特に制限はされないが、0.001~2.0mol/Lが好ましく、0.005~1.0mol/Lがより好ましい。

【0068】

以下に、本発明のHDLコレステロールの測定方法、測定用試薬および測定用キットを具体的に説明する。

(HDLコレステロールの測定方法)

本発明のHDLコレステロールの測定方法としては、例えば以下の態様の方法が挙げられる。

【0069】

測定方法1

(1) 検体と、脾臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾

のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素、または、
膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル
加水分解酵素、酸化型補酵素およびコレステロール脱水素酵素とを、胆汁酸誘
導体を含有する水性媒体中で反応させ、

(2) 生成した過酸化水素または還元型補酵素を測定し、

(3) (2) で測定した値と、予め作成した検量線とから、検体中のHDLコレ
ステロール濃度を算出することにより、検体中のHDLコレステロールを測定す
ることができる。

【0070】

測定方法2

(1) 検体と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾
のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素、または
、無修飾の膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロー
ルエステル加水分解酵素、酸化型補酵素およびコレステロール脱水素酵素とを、
胆汁酸誘導体およびアルブミンを含有する水性媒体中で反応させ、

(2) 生成した過酸化水素または還元型補酵素を測定し、

(3) (2) で測定した値と、予め作成した検量線とから、検体中のHDLコレ
ステロール濃度を算出することにより、検体中のHDLコレステロールを測定す
ることができる。

【0071】

測定方法3

(1) 検体と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的
に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵
素、または、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修
飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、酸化型補酵素およびコレステロ
ール脱水素酵素とを、胆汁酸誘導体を含有する水性媒体中で反応させ、

(2) 生成した過酸化水素または還元型補酵素を測定し、

(3) (2) で測定した値と、予め作成した検量線とから、検体中のHDLコレ
ステロール濃度を算出することにより、検体中のHDLコレステロールを測定す

ることができる。

【0072】

測定方法4

(1) 検体と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素、または、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、酸化型補酵素およびコレステロール脱水素酵素とを、胆汁酸誘導体およびアルブミンを含有する水性媒体中で反応させ、

(2) 生成した過酸化水素または還元型補酵素を測定し、

(3) (2) で測定した値と、予め作成した検量線とから、検体中のHDLコレステロール濃度を算出することにより、検体中のHDLコレステロールを測定することができる。

【0073】

本測定法においては、(1) の反応は、例えば10～50℃で、好ましくは20～40℃で、1～60分間、好ましくは2～30分間反応を行う。

生成した過酸化水素の量は、例えば過酸化水素測定用試薬により測定することができる。過酸化水素測定用試薬は、生成した過酸化水素を検出可能な物質へ変換するための試薬である。検出可能な物質としては、例えば色素、発光等が挙げられるが、色素が好ましい。検出可能な物質が色素の場合には、過酸化水素測定用試薬は、酸化発色型色原体およびペルオキシダーゼ等の過酸化活性物質を含有する。酸化発色型色原体としては、例えば後述の酸化発色型色原体が挙げられる。検出可能な物質が発光の場合には、過酸化水素測定用試薬は、化学発光物質を含有する。化学発光物質としては、例えばルミノール、イソルミノール、ルシゲニン、アクリジニウムエステル等が挙げられる。

【0074】

過酸化水素測定用試薬として、酸化発色型色原体およびペルオキシダーゼ等の過酸化活性物質を含有する試薬を用いる場合には、過酸化水素は、過酸化活性物質の存在下に酸化発色型色原体と反応して色素を生成し、生成した色素を定量す

ることにより、過酸化水素を定量することができる。また、化学発光物質を含有する過酸化水素測定用試薬を用いる場合には、過酸化水素は、化学発光物質と反応してフォトンを生じ、生じたフォトンを定量することにより、過酸化水素を定量することができる。

【0075】

酸化発色型色原体としては、例えばロイコ型色原体、酸化カップリング発色型色原体等が挙げられる。ロイコ型色原体は、過酸化水素およびペルオキシダーゼ等の過酸化活性物質の存在下、単独で色素へ変換される物質である。具体的には、10-N-カルボキシメチルカルバモイル-3,7-ビス(ジメチルアミノ)-10H-フェノチアジン(CCAP)、10-N-メチルカルバモイル-3,7-ビス(ジメチルアミノ)-10H-フェノチアジン(MCDP)、N-(カルボキシメチルアミノカルボニル)-4,4'-ビス(ジメチルアミノ)ジフェニルアミンナトリウム塩(DA-64)、4,4'-ビス(ジメチルアミノ)ジフェニルアミン、ビス[3-ビス(4-クロロフェニル)メチル-4-ジメチルアミノフェニル]アミン(BCMA)等が挙げられる。

【0076】

酸化カップリング発色型色原体は、過酸化水素およびペルオキシダーゼ等の過酸化活性物質の存在下、2つの化合物が酸化的カップリングして色素を生成する物質である。2つの化合物の組み合わせとしては、カプラーとアニリン類との組み合わせ、カプラーとフェノール類との組み合わせ等が挙げられる。カプラーとしては、例えば4-アミノアンチピリン(4-AA)、3-メチル-2-ベンゾチアゾリノンヒドラジン等が挙げられる。アニリン類としては、N-(3-スルホプロピル)アニリン、N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)-3-メチルアニリン(TOOS)、N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)-3,5-ジメチルアニリン(MAOS)、N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)-3,5-ジメトキシアニリン(DAOS)、N-エチル-N-(3-スルホプロピル)-3-メチルアニリン(TOPS)、N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)-3,5-ジメトキシアニリン(HDAOS)、N,N-ジメチル-3-メチルアニリン、N,N-

ジ(3-スルホプロピル)-3, 5-ジメトキシアニリン、N-エチル-N-(3-スルホプロピル)-3-メトキシアニリン、N-エチル-N-(3-スルホプロピル)アニリン、N-エチル-N-(3-スルホプロピル)-3, 5-ジメトキシアニリン、N-(3-スルホプロピル)-3, 5-ジメトキシアニリン、N-エチル-N-(3-スルホプロピル)-3, 5-ジメチルアニリン、N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)-3-メトキシアニリン、N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)アニリン、N-エチル-N-(3-メチルフェニル)-N'-サクシニルエチレンジアミン(EMS E)、N-エチル-N-(3-メチルフェニル)-N'-アセチルエチレンジアミン、N-エチル-N-(2-ヒドロキシ-3-スルホプロピル)-4-フルオロ-3, 5-ジメトキシアニリン(F-DAOS)等が挙げられる。フェノール類としては、フェノール、4-クロロフェノール、3-メチルフェノール、3-ヒドロキシ-2, 4, 6-トリヨード安息香酸(HTIB)等が挙げられる。

【0077】

過酸化水素の測定において、過酸化活性物質の濃度は、測定に適した濃度であれば特に制限はないが、過酸化活性物質としてパーオキシダーゼを用いる場合は、1~100 kU/Lが好ましい。また、酸化発色型色原体の濃度は、測定に適した濃度であれば特に制限はないが、0.01~10 g/Lが好ましい。

【0078】

還元型補酵素の測定方法としては、例えば生成した還元型補酵素の吸光度を測定する方法、還元型補酵素測定用試薬を用いる方法等が挙げられる。還元型補酵素の吸光度を測定する方法における吸光度としては、300~500 nmが好ましく、330~400 nmがより好ましく、340 nm付近が特に好ましい。還元型補酵素測定用試薬は、生成した還元型補酵素を検出可能な物質へ変換するための試薬である。検出可能な物質としては、例えば色素等が挙げられる。検出可能な物質が色素の場合の還元型補酵素測定用試薬としては、例えばジアホラーゼ、電子キャリアーおよび還元発色型色原体を含有する試薬が挙げられる。電子キャリアーとしては、例えば1-メトキシ-5-メチルフェナジウムメチルサルフェート等が挙げられる。還元型補酵素測定用試薬として、ジアホラーゼ、電子キ

キャリアーおよび還元発色型色原体を含有する試薬を用いる場合には、還元発色型色原体が変換されて生成した色素を定量することにより、還元型補酵素を定量することができる。

【0079】

還元発色型色原体としては、例えば3-(4,5-ジメチル-2-チアゾリル)-2,5-ジフェニル-2H-テトラゾリウム ブロミド(MTT)、2-(4-ヨードフェニル)-3-(4-ニトロフェニル)-5-(2,4-ジスルホフェニル)-2H-テトラゾリウム モノナトリウム塩(WST-1)、2-(4-ヨードフェニル)-3-(2,4-ジニトロフェニル)-5-(2,4-ジスルホフェニル)-2H-テトラゾリウム モノナトリウム塩(WST-3)等が挙げられる。

【0080】

(HDLコレステロール測定用試薬)

本発明のHDLコレステロール測定用試薬としては、例えば以下の態様の試薬が挙げられる。

試薬1

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

試薬2

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体、アルブミンおよび過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

【0081】

試薬3

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、胆汁酸誘導体および酸化型補酵素を含有する試薬。

試薬4

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、胆汁酸誘導体、アルブミンおよび酸化型補酵素を含有する試薬。

【0082】

試薬 5

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、胆汁酸誘導体、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

試薬 6

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、胆汁酸誘導体、アルブミン、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

【0083】

試薬 7

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

試薬 8

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体、アルブミンおよび過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

【0084】

試薬 9

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、胆汁酸誘導体および酸化型補酵素を含有する試薬。

試薬 10

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、胆汁酸誘導体

、アルブミンおよび酸化型補酵素を含有する試薬。

【0085】

試薬 1.1

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、胆汁酸誘導体、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

試薬 1.2

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、胆汁酸誘導体、アルブミン、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

【0086】

本発明のHDLコレステロール測定用試薬においては、前述の本発明のHDLコレステロールの測定方法において挙げられたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、コレステロール脱水素酵素、胆汁酸誘導体、アルブミン、過酸化水素測定用試薬、酸化型補酵素、還元型補酵素測定用試薬を用いることができる。

【0087】

(HDLコレステロール測定用キット)

本発明のHDLコレステロール測定用試薬は、キットの形態で保存、流通および使用されてもよい。キットの形態としては、特に制限はなく、2試薬系、3試薬系等のいずれであってもよいが、2試薬系が好ましい。

第一試薬と第二試薬とからなる2試薬系のHDLコレステロール測定用キットにおいては、コレステロールエステル加水分解酵素と、コレステロール酸化酵素またはコレステロール脱水素酵素とは、第一試薬と第二試薬に別々に含有されても、第二試薬と一緒に含有されてもよいが、第一試薬と第二試薬に別々に含有される場合には、コレステロールエステル加水分解酵素が第一試薬に、コレステロール酸化酵素またはコレステロール脱水素酵素が第二試薬に含有される態様が好ましい。胆汁酸誘導体は、第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有されてもよい。コレステロール脱水素酵素を用いた測定法において使用される酸化型

補酵素は、第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有されてもよい。過酸化水素測定用試薬は、第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有されてもよいが、当該試薬が酸化カップリング型色原体を含有する場合には、酸化カップリング型色原体のそれぞれの化合物は別々の試薬に含有される態様が好ましい。還元型補酵素測定用試薬は、第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有されてもよい。また、アルブミンは、第一試薬、第二試薬のいずれかまたは両方に含有されてもよい。

【0088】

具体的には、例えば以下の態様のキットが挙げられる。

キット1

第一試薬

脾臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

第二試薬

コレステロール酸化酵素および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

キット2

第一試薬

脾臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、胆汁酸誘導体、アルブミンおよび過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

第二試薬

コレステロール酸化酵素および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

【0089】

キット3

第一試薬

脾臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

第二試薬

コレステロール酸化酵素および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

キット 4

第一試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、胆汁酸誘導体、アルブミンおよび過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

第二試薬

コレステロール酸化酵素および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

【 0 0 9 0 】

キット 5

第一試薬

過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

第二試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

キット 6

第一試薬

アルブミンおよび過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

第二試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

【 0 0 9 1 】

キット 7

第一試薬

過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

第二試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

キット 8

第一試薬

アルブミンおよび過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

第二試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、胆汁酸誘導体および過酸化水素測定用試薬を含有する試薬。

【 0 0 9 2 】

キット 9

第一試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素および胆汁酸誘導体を含有する試薬。

第二試薬

コレステロール脱水素酵素および酸化型補酵素を含有する試薬。

キット 1 0

第一試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、胆汁酸誘導体およびアルブミンを含有する試薬。

第二試薬

コレステロール脱水素酵素および酸化型補酵素を含有する試薬。

【 0 0 9 3 】

キット 1 1

第一試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素および胆汁酸誘導体を含有する試薬。

第二試薬

コレステロール脱水素酵素、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

キット 12

第一試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、胆汁酸誘導体およびアルブミンを含有する試薬。

第二試薬

コレステロール脱水素酵素、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

【0094】

キット 13

第一試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素および胆汁酸誘導体を含有する試薬。

第二試薬

コレステロール脱水素酵素および酸化型補酵素を含有する試薬。

キット 14

第一試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、胆汁酸誘導体およびアルブミンを含有する試薬。

第二試薬

コレステロール脱水素酵素および酸化型補酵素を含有する試薬。

【0095】

キット 15

第一試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素および胆汁酸誘導体を含有する試薬。

第二試薬

コレステロール脱水素酵素、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

キット 16

第一試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、胆汁酸誘導体およびアルブミンを含有する試薬。

第二試薬

コレステロール脱水素酵素、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

【0096】

キット 17

第一試薬

胆汁酸誘導体を含有する試薬。

第二試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素および酸化型補酵素を含有する試薬。

キット 18

第一試薬

胆汁酸誘導体およびアルブミンを含有する試薬。

第二試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素および酸化型補酵素を含有する試薬。

【0097】

キット 19

第一試薬

胆汁酸誘導体を含有する試薬。

第二試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

キット 2 0

第一試薬

胆汁酸誘導体およびアルブミンを含有する試薬。

第二試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の無修飾のコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

【 0 0 9 8 】

キット 2 1

第一試薬

胆汁酸誘導体を含有する試薬。

第二試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素および酸化型補酵素を含有する試薬。

キット 2 2

第一試薬

胆汁酸誘導体およびアルブミンを含有する試薬。

第二試薬

膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素および酸化型補酵素を含有する試薬。

【 0 0 9 9 】

キット 2 3

第一試薬

胆汁酸誘導体を含有する試薬。

第二試薬

脾臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

キット 2 4

第一試薬

胆汁酸誘導体およびアルブミンを含有する試薬。

第二試薬

脾臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール脱水素酵素、酸化型補酵素および還元型補酵素測定用試薬を含有する試薬。

【 0 1 0 0 】

本発明のHDLコレステロール測定用キットにおいては、前述の本発明のHDLコレステロールの測定方法において挙げられたコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、コレステロール脱水素酵素、胆汁酸誘導体、アルブミン、過酸化水素測定用試薬、酸化型補酵素、還元型補酵素測定用試薬を用いることができる。

【 0 1 0 1 】

本発明のHDLコレステロール測定用試薬および測定用キットには、必要に応じて、水性媒体、安定化剤、防腐剤、影響物質消去剤等が含有されてもよい。水性媒体としては、例えば前述の水性媒体等が挙げられる。安定化剤としては、例えばエチレンジアミン四酢酸（EDTA）等が挙げられる。防腐剤としては、例えばアジ化ナトリウム、抗生物質等が挙げられる。影響物質消去剤としては、例えばアスコルビン酸の影響を消去するためのアスコルビン酸オキシダーゼ等が挙げられる。

【 0 1 0 2 】

本発明のHDLコレステロール測定用試薬および測定用キットは、凍結乾燥された状態でも、水性媒体に溶解された状態でもよい。凍結乾燥された状態の試薬

を用いて検体中のHDLコレステロールを測定する場合には、当該試薬は水性媒体に溶解して使用される。

【0103】

本発明のHDLコレステロール測定用試薬および測定用キットにおけるコレステロールエステル加水分解酵素、コレステロール酸化酵素、コレステロール脱水素酵素の含量としては、水性媒体で溶解された状態での濃度が0.01～800 U/mLとなる含量が好ましく、0.02～400 U/mLとなる含量がより好ましい。本発明のHDLコレステロール測定用試薬および測定用キットにおける胆汁酸誘導体の含量としては、水性媒体で溶解された状態での濃度が0.001～30%となる含量が好ましく、0.01～10%となる含量がより好ましい。本発明のHDLコレステロール測定用試薬および測定用キットにおけるアルブミンの含量としては、水性媒体で溶解された状態での濃度が0.001～10%となる含量が好ましく、0.01～5%となる含量がより好ましい。

【0104】

以下、実施例により本発明をより詳細に説明するが、これらは本発明の範囲を何ら限定するものではない。尚、本実施例においては、下記の試薬および酵素を使用した。

HEPES (BDH Laboratory社製)、EMSE (ダイトーケミックス社製)、ウシ血清アルブミン (BSA; オリエンタル社製)、4-アミノアンチピリン (埼玉化成社製)、ペルオキシダーゼ (東洋紡績社製)、LPL311 (コレステロールエステル加水分解酵素; 東洋紡績社製)、LPL6 (コレステロールエステル加水分解酵素; 天野エンザイム社製)、CHE2 (コレステロールエステル加水分解酵素; 天野エンザイム社製)、COE313 (化学修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素; 東洋紡績社製)、COO321 (コレステロールオキシダーゼ; 東洋紡績社製)、コール酸ナトリウム (ACROSS社製)、タウロコール酸ナトリウム (東京化成社製)、BIGCHAP (同仁化学社製)、CHAPS (同仁化学社製)。

【0105】

【実施例】

参考例1 化学修飾LPL311（化学的に修飾されたLPL311）の調製

HEPES緩衝液（pH8.5, 0.15 mol/L）に、LPL311を33 g/Lとなるように加え5℃に冷却した後、サンブライトVFM-4101またはサンブライトAKM-1510またはサンブライトMEAC-50HS（いずれも日本油脂社製）を330 g/Lとなるように加え、さらに3時間反応させた。得られた修飾酵素溶液を精製分離せずそのまま化学修飾LPL311として使用した。

参考例2 化学修飾CHE2（化学的に修飾されたCHE2）の調製

HEPES緩衝液（pH8.5, 0.15 mol/L）に、CHE2を50 g/Lとなるように加え5℃に冷却した後、サンブライトVFM-4101（日本油脂社製）を200 g/Lとなるように加え、さらに3時間反応させた。得られた修飾酵素溶液を精製分離せずそのまま化学修飾CHE2として使用した。

【0106】

実施例1 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L

・第二試薬

HEPES (pH7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L

化学修飾LPL311（VFM-4101で修飾したもの）

	0.2 kU/L
COO321	3.0 kU/L
コール酸ナトリウム	6.0 g/L

【0107】

実施例2 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L
BSA	2.0 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
化学修飾LPL311 (VFM-4101で修飾したもの)	0.2 kU/L
COO321	3.0 kU/L
コール酸ナトリウム	6.0 g/L

【0108】

実施例3 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
化学修飾LPL311 (VFM-4101で修飾したもの)	0.2 kU/L
COO321	3.0 kU/L

タウロコール酸ナトリウム

7.0 g/L

【0109】

実施例4 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)

10 mmol/L

EMSE

0.3 g/L

BSA

2.0 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)

10 mmol/L

4-アミノアンチピリン

0.3 g/L

ペルオキシダーゼ

20 kU/L

化学修飾LPL311 (VFM-4101で修飾したもの)

0.2 kU/L

COO321

3.0 kU/L

タウロコール酸ナトリウム

7.0 g/L

【0110】

実施例5 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)

10 mmol/L

EMSE

0.3 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)

10 mmol/L

4-アミノアンチピリン

0.3 g/L

ペルオキシダーゼ

20 kU/L

化学修飾LPL311 (VFM-4101で修飾したもの)

COO321

BIGCHAP

【0111】

実施例6 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)

EMSE

BSA

0.2 kU/L

3.0 kU/L

4.5 g/L

10 mmol/L

0.3 g/L

2.0 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)

4-アミノアンチピリン

ペルオキシダーゼ

化学修飾LPL311 (VFM-4101で修飾したもの)

10 mmol/L

0.3 g/L

20 kU/L

0.2 kU/L

COO321

3.0 kU/L

BIGCHAP

4.5 g/L

【0112】

実施例7 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)

EMSE

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)

4-アミノアンチピリン

10 mmol/L

0.3 g/L

10 mmol/L

0.3 g/L

ペルオキシダーゼ	20 kU/L
化学修飾LPL311 (VFM-4101で修飾したもの)	
	0.2 kU/L
COO321	3.0 kU/L
CHAPS	6.0 g/L

【0113】

実施例8 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・ 第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L
BSA	2.0 g/L

・ 第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
化学修飾LPL311 (VFM-4101で修飾したもの)	
	0.2 kU/L
COO321	3.0 kU/L
CHAPS	6.0 g/L

【0114】

比較例1 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・ 第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L

・ 第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
化学修飾LPL311 (VFM-4101で修飾したもの)	0.2 kU/L
COO321	3.0 kU/L

【0115】

比較例2 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L
BSA	2.0 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
化学修飾LPL311 (VFM-4101で修飾したもの)	0.2 kU/L
COO321	3.0 kU/L

【0116】

実施例9 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L
BSA	2.0 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
LPL6	0.05 kU/L
COO321	3.0 kU/L
コール酸ナトリウム	6.0 g/L

【0117】

実施例10 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
LPL6	0.05 kU/L
COO321	3.0 kU/L
コール酸ナトリウム	6.0 g/L

【0118】

実施例11 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L
BSA	2.0 g/L

・ 第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
LP L6	0.05 kU/L
COO321	3.0 kU/L
タウロコール酸ナトリウム	7.0 g/L

【0119】

実施例 12 HDL コレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなる HDL コレステロール測定用キットを調製した。

・ 第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L

・ 第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
LP L6	0.05 kU/L
COO321	3.0 kU/L
タウロコール酸ナトリウム	7.0 g/L

【0120】

実施例 13 HDL コレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなる HDL コレステロール測定用キットを調製した。

・ 第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L

・ 第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
LPL6	0.05 kU/L
COO321	3.0 kU/L
BIGCHAP	4.5 g/L

【0121】

実施例14 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L
BSA	2.0 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
LPL6	0.05 kU/L
COO321	3.0 kU/L
BIGCHAP	4.5 g/L

【0122】

実施例15 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
LPPL6	0.05 kU/L
COO321	3.0 kU/L
CHAPS	6.0 g/L

【0123】

実施例16 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・ 第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L
BSA	2.0 g/L

・ 第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
LPPL6	0.05 kU/L
COO321	3.0 kU/L
CHAPS	6.0 g/L

【0124】

比較例3 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・ 第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L

・ 第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
LP L6	0.05 kU/L
COO321	3.0 kU/L

【0125】

比較例4 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L
BSA	2.0 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
LP L6	0.05 kU/L
COO321	3.0 kU/L

【0126】

実施例17 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L

・第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L

ペルオキシダーゼ 20 kU/L

化学修飾CHE2 (VFM-4101で修飾したもの)

0.2 kU/L

COO321

3.0 kU/L

コール酸ナトリウム

6.0 g/L

【0127】

実施例18 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH7.5) 10 mmol/L

EMSE 0.3 g/L

・第二試薬

HEPES (pH7.0) 10 mmol/L

4-アミノアンチピリン 0.3 g/L

ペルオキシダーゼ 20 kU/L

化学修飾LPL311 (MEAC-50HSで修飾したもの)

0.2 kU/L

COO321

3.0 kU/L

コール酸ナトリウム

6.0 g/L

【0128】

実施例19 HDLコレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなるHDLコレステロール測定用キットを調製した。

・第一試薬

HEPES (pH7.5) 10 mmol/L

EMSE 0.3 g/L

・第二試薬

HEPES (pH7.0) 10 mmol/L

4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
化学修飾 L P L 3 1 1 (AKM-1510で修飾したもの)	
	0.2 kU/L
COO321	3.0 kU/L
コール酸ナトリウム	6.0 g/L

【0129】

実施例 20 HDL コレステロール測定用キット

以下の第一試薬および第二試薬からなる HDL コレステロール測定用キットを調製した。

・ 第一試薬

HEPES (pH 7.5)	10 mmol/L
EMSE	0.3 g/L

・ 第二試薬

HEPES (pH 7.0)	10 mmol/L
4-アミノアンチピリン	0.3 g/L
ペルオキシダーゼ	20 kU/L
COE313	1.0 kU/L
COO321	3.0 kU/L
コール酸ナトリウム	6.0 g/L

【0130】

実施例 21 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットを用いて、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

(1) 検量線の作成

標準液として、生理食塩水 (HDL コレステロール濃度: 0.0 mg/dL) および血清 (HDL コレステロール濃度: 60.0 mg/dL) を、キットとして実施例 1 のキットを用いて、日立 7170 型自動分析装置により、HDL コレステロール濃度と「吸光度」との間の関係を示す検量線を作成した。

ここでの「吸光度」とは、以下の反応で測定された2つの吸光度（E1およびE2）を基に、E2からE1を差し引くことにより得られた値を表す。

反応セルへ標準液（3 μ L）と第一試薬（0.24 mL）とを添加し37℃で5分間加温し、反応液の吸光度（E1）を主波長600 nm、副波長700 nmで測定し、次いで、この反応液に第二試薬（0.08 mL）を添加しさらに37℃で5分間加温し、反応液の吸光度（E2）を主波長600 nm、副波長700 nmで測定した。

（2）ヒト血清検体と実施例1のキットとの反応による当該検体における「吸光度」の算出

（1）の検量線の作成において用いた標準液の代わりにヒト血清検体を用いる以外は、（1）の「吸光度」の算出方法と同様の方法により、当該検体における「吸光度」を算出した。

（3）ヒト血清検体中のHDLコレステロール濃度の測定

（2）で算出した「吸光度」と、（1）で作成した検量線とから、各検体中のHDLコレステロール濃度を測定した。

【0131】

実施例22 HDLコレステロールの測定

実施例1のキットの代わりに実施例2のキットを用いる以外は実施例21の測定法と同様にして、日立7170型自動分析装置によりヒト血清30検体中のHDLコレステロールを測定した。

実施例23 HDLコレステロールの測定

実施例1のキットの代わりに実施例3のキットを用いる以外は実施例21の測定法と同様にして、日立7170型自動分析装置によりヒト血清30検体中のHDLコレステロールを測定した。

実施例24 HDLコレステロールの測定

実施例1のキットの代わりに実施例4のキットを用いる以外は実施例21の測定法と同様にして、日立7170型自動分析装置によりヒト血清30検体中のHDLコレステロールを測定した。

実施例25 HDLコレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 5 のキットを用いる以外は実施例 2 1 の測定法と同様にして、日立 7 1 7 0 型自動分析装置によりヒト血清 3 0 検体中の H D L コレステロールを測定した。

実施例 2 6 H D L コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 6 のキットを用いる以外は実施例 2 1 の測定法と同様にして、日立 7 1 7 0 型自動分析装置によりヒト血清 3 0 検体中の H D L コレステロールを測定した。

実施例 2 7 H D L コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 7 のキットを用いる以外は実施例 2 1 の測定法と同様にして、日立 7 1 7 0 型自動分析装置によりヒト血清 3 0 検体中の H D L コレステロールを測定した。

実施例 2 8 H D L コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 8 のキットを用いる以外は実施例 2 1 の測定法と同様にして、日立 7 1 7 0 型自動分析装置によりヒト血清 3 0 検体中の H D L コレステロールを測定した。

【 0 1 3 2 】

比較例 5 H D L コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに比較例 1 のキットを用いる以外は実施例 2 1 の測定法と同様にして、日立 7 1 7 0 型自動分析装置によりヒト血清 3 0 検体中の H D L コレステロールを測定した。

比較例 6 H D L コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに比較例 2 のキットを用いる以外は実施例 2 1 の測定法と同様にして、日立 7 1 7 0 型自動分析装置によりヒト血清 3 0 検体中の H D L コレステロールを測定した。

実施例 2 9 H D L コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 9 のキットを用いる以外は実施例 2 1 の測定法と同様にして、日立 7 1 7 0 型自動分析装置によりヒト血清 3 0 検体中の H D L コレステロールを測定した。

実施例 3 0 H D L コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 10 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

実施例 31 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 11 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

実施例 32 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 12 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

【0133】

実施例 33 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 13 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

実施例 34 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 14 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

実施例 35 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 15 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

実施例 36 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 16 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

【0134】

比較例 7 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに比較例 3 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

比較例 8 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに比較例 4 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

実施例 37 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 17 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

実施例 38 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 18 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

実施例 39 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 19 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

実施例 40 HDL コレステロールの測定

実施例 1 のキットの代わりに実施例 20 のキットを用いる以外は実施例 21 の測定法と同様にして、日立 7170 型自動分析装置によりヒト血清 30 検体中の HDL コレステロールを測定した。

【0135】

一方、実施例 21～40 および比較例 5～8 の測定において用いたヒト血清 30 検体を用いて、クリニカルケミストリー第 45 巻、10 号（1999 年）に記載された DCM 法（Designated Comparison Method）により当該検体中の HDL コレステロールを測定し、各測定法と比較した。

実施例 21～40 および比較例 5～8 それぞれの測定法と、DCM法による測定法との相関係数を表 1 に示す。

【0136】

【表 1】

測定	キット	胆汁酸誘導体	コレステロール加水分解酵素	BSA	相関係数
実施例 21	実施例 1	コール酸ナリウム	VFM-4101 で修飾した LPL311	-	0.934
実施例 22	実施例 2	コール酸ナリウム	VFM-4101 で修飾した LPL311	+	0.928
実施例 23	実施例 3	タウロコール酸ナリウム	VFM-4101 で修飾した LPL311	-	0.889
実施例 24	実施例 4	タウロコール酸ナリウム	VFM-4101 で修飾した LPL311	+	0.889
実施例 25	実施例 5	BIGCHAP	VFM-4101 で修飾した LPL311	-	0.991
実施例 26	実施例 6	BIGCHAP	VFM-4101 で修飾した LPL311	+	0.983
実施例 27	実施例 7	CHAPS	VFM-4101 で修飾した LPL311	-	0.986
実施例 28	実施例 8	CHAPS	VFM-4101 で修飾した LPL311	+	0.984
比較例 5	比較例 1	-	VFM-4101 で修飾した LPL311	-	0.013
比較例 6	比較例 2	-	VFM-4101 で修飾した LPL311	+	0.008
実施例 29	実施例 9	コール酸ナリウム	LPL6 (無修飾)	+	0.981
実施例 30	実施例 10	コール酸ナリウム	LPL6 (無修飾)	-	0.774
実施例 31	実施例 11	タウロコール酸ナリウム	LPL6 (無修飾)	+	0.983
実施例 32	実施例 12	タウロコール酸ナリウム	LPL6 (無修飾)	-	0.726
実施例 33	実施例 13	BIGCHAP	LPL6 (無修飾)	-	0.988
実施例 34	実施例 14	BIGCHAP	LPL6 (無修飾)	+	0.991
実施例 35	実施例 15	CHAPS	LPL6 (無修飾)	-	0.977
実施例 36	実施例 16	CHAPS	LPL6 (無修飾)	+	0.994
比較例 7	比較例 3	-	LPL6 (無修飾)	-	0.414
比較例 8	比較例 4	-	LPL6 (無修飾)	+	0.462
実施例 37	実施例 17	コール酸ナリウム	VFM-4101 で修飾した CHE2	-	0.948
実施例 38	実施例 18	コール酸ナリウム	MEAC-50HS で修飾した LPL311	-	0.960
実施例 39	実施例 19	コール酸ナリウム	AKM-1510 で修飾した LPL311	-	0.935
実施例 40	実施例 20	コール酸ナリウム	COE313	-	0.916

【0137】

実施例 21～28 の結果から明らかなように、コレステロールエステル加水分解酵素として化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素を用いた場合には、アルブミンの有無にかかわらず、コール酸、タウロコール酸、BIGCHAP、CHAPS のいずれの胆汁酸誘導体の存在下でも、DCM法による測定との間に良い相関が認められたが、比較例 5 および 6 に示されているように、胆汁酸誘導体の非存在下では、アルブミンの有無にかかわらず、DCM法による

測定との間に良い相関が認められなかった。

【0138】

一方、実施例29と実施例30、実施例31と実施例32、実施例33と実施例34、実施例35と実施例36との比較から、コレステロールエステル加水分解酵素として無修飾の酵素を用いた場合には、胆汁酸誘導体としてコール酸またはタウロコール酸を存在させた条件下では、アルブミンを添加した方がDCM法による測定との間の相関が良好であったが、胆汁酸誘導体としてBIGCHAPまたはCHAPSを存在させた条件下では、アルブミンの有無にかかわらず、DCM法による測定との間に良い相関が得られることが判明した。

【0139】

また、実施例21と実施例37との比較より、化学修飾LPL311以外の化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素を用いた測定においても、DCM法による測定との間に良い相関が得られることが判明した。さらに、実施例21と実施例38との比較、および、実施例21と実施例39との比較より、化学修飾剤として、VFM-4101以外の修飾剤を用いて調製した化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素を用いた場合においても、DCM法による測定との間に良い相関が得られることが判明した。また、実施例21と実施例40との比較より、化学的に修飾されたコレステロールエステル加水分解酵素として市販品を用いた場合においても、DCM法による測定との間に良い相関が得られることが判明した。

【0140】

【発明の効果】

本発明により、簡便、かつ、正確にHDLコレステロールを測定することができ、HDLコレステロールの測定方法、測定用試薬および測定用キットが提供される。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 検体中の高密度リポ蛋白中のコレステロールを、正確かつ簡便に測定するための方法、試薬およびキットを提供する。

【解決手段】 検体と、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール酸化酵素、または、膵臓由来のコレステロールエステル加水分解酵素以外のコレステロールエステル加水分解酵素およびコレステロール脱水素酵素とを、胆汁酸誘導体または胆汁酸誘導体とアルブミンを含有する水性媒体中で反応させ、高密度リポ蛋白以外のリポ蛋白中のコレステロールを消去することなく、生成した過酸化水素または還元型補酵素を測定することを特徴とする高密度リポ蛋白中のコレステロールを測定する方法。

【選択図】 なし

特願 2002-301328

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000162478]

1. 変更年月日

1994年 9月13日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都中央区入船二丁目1番1号

氏 名

協和メデックス株式会社